

JISA 革命プロジェクト、「パラリンピック支援プロジェクト」始まる

JISA 革命プロジェクトとして、中学校デジタル化プロジェクトに続き、5月18日、第1回パラリンピック支援プロジェクトが開催された。

なぜパラリンピック支援か

冒頭、横塚 JISA 会長より「日頃から障がいをもった人との素直なコミュニケーションに助けられていることに気づくことがある。2020年東京パラリンピックの成功に向けてソフトウェアで支援し、これを契機に障がい者が普通に活躍出来るインクルーシブな社会を築いていきたい」と本プロジェクトに対する想いが述べられた。



2020年パラリンピック東京大会に向けた現状と期待

続いて、本プロジェクトのリーダーを務める小林委員（東京海上日動システムズ(株) 取締役）の説明により、2020年パラリンピック東京大会に向けた各方面における検討状況に関する情報共有を行った。

現在、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会では基本計画を策定し、自治体や企業・団体をはじめ多くの人々が積極的に参画すること（アクション）、東京大会をきっかけに次代を担う若者や子供たちにポジティブな影響を残せる取組にすること（レガシー）を目指している。特にパラリンピックにおいては、障がい者スポーツの発展、ユニバーサルデザインに基づく街づくり、文化・教育を通じた多様性への理解深耕等が期待されている。



JISAは何をするのか

情報共有の後、本プロジェクトの目的として、（1）パラリンピックそのものを盛り上げる、（2）東京大会に向けて全国・世界中から集まる障がい者の観戦者をサポートする、（3）インクルーシブ社会推進への貢献の3つの方向性について検討が行われた。

上記の方向性については、JISA では IoT を活用することにより（２）に取り組むことかという意見が多かった。また、（３）についてはダイバーシティ委員会等で取り組んでいる障がい者雇用促進とも連携できるのではないかとの意見もあった。

また、障がい者スポーツの経験と知見のある方の意見や考えを聞くこと、障がい者競技を実際に観戦することも大切であり、そこから得られる知見が重要であるという意見に一致した。



では、何から始めるか

今回の議論を踏まえ、本プロジェクトでは、障がい者スポーツの経験と知見をお持ちの方にもプロジェクトに参加してもらい、日本財団パラリンピックサポートセンターを見学することから始めることとなった。

（手計）

JISA 革命プロジェクト

「JISA Spirit」に基づき、ソフトウェアはすべての産業の基盤として社会を変えていく（Software Defined Everything）ことを具体化するプロジェクト。これにより、ソフトウェアでどうビジネスを創るかを実践し、従来の受託型ビジネスを提案型ビジネスへと転換していく契機とすることを目指す。